

## シンポジウム題目：水圏における地域の生物多様性研究を通じた環境教育

### ●演題1：行政との魚図鑑制作プロジェクトの実施と環境教育への発展

演者：村瀬敦宣

所属：宮崎大学農学部

要旨：持続可能な開発目標（SDGs）が提唱された昨今において、環境教育の果たす役割は大きい。しかしながら、日本国内においては普通教育の課程の中で水圏に関する教育は体系的に実施されていない。また、日本列島は多様な気候帯を含んだ地域であり、持続可能な地域づくりへのプロセスも多様であることから、環境教育においても地域レベルで実践されることが求められる。2016年より、演者らは宮崎県北部にある門川町との連携事業の中で魚図鑑を制作するプロジェクトを実施することとなった。門川町は古くから「さかなのまち」として県内では知られた地域であり、南北を岩礁で囲まれた門川湾が位置するだけでなく、この周囲には南からの黒潮だけでなく、瀬戸内海からの海流も到達することが知られている。このことから門川湾周辺海域は高い魚類多様性を有することが当初から期待されており、本プロジェクトによって同海域から2019年には魚類515種を、2021年には815種を掲載した図鑑を出版するに至った。これらの図鑑は町のふるさと納税の返礼品に採用されただけでなく、この情報を活かした大学による初等教育への協力等、地域における環境教育が定期的になされるようになった。本講演ではこの図鑑制作プロセスと、本プロジェクトが環境教育へと発展していった経緯について紹介することで、水圏の生物多様性研究を環境教育へとつなげるモデルケースとしての情報提供を行う。